



# アウル通信

2022.8.1 発行 第243号

## 『爪切り』

今回は、ある日の北海道新聞の読者の欄に掲載されていた記事をご紹介致します。

とても大切な事が書かれていましたので、全職員の皆さんにもお伝えしました。

昨年の11月、グループホームで穏やかに生活していた91歳の母が2度目の脳梗塞を発症し、総合病院に緊急搬送された。その後、私は往復2時間以上もかけて、母の見舞いを続けた。行く度に寝たきりに近づいていく母を見るのは、とても悲しく切なかった。急性期も過ぎ、私自身の体力も考えて、通勤途中に寄れる近くの病院に転院できるようお願いした。気になっていることがあった。タカの爪のように伸びた母の足の爪だ。新しい年が明けて早々、母は転院となった。爪はそのままに。転院して3日目、母の爪はきれいに切りそろえられていた。私はとてもうれしかった。家族の思いとは、そういうことであり、人間の尊厳とは、そういうことであり。病院の質とは、そういうところにあると思えてならなかった。私には、爪切りという小さな行為の中に、決して大げさではなく、全てが含まれているように感じられた。終末が近ければ近いほど、大事なことは、高度な医療や技術ではなく、一人の人間として、どう向き合ってもらえるのかということではないだろうか。近いということで希望した病院だったけれど、自分の選択にまちがいはなかったと満足している。

一句

寝たきりの 母の爪切り 人として

\* ここに居るよと 生きているよと (豊浦町 主婦)

最後に、近々、コロナの感染者が増えているという情報が多くなりました。

皆様におかれましては、お身体ご自愛下さいますようお願い申し上げます。

感謝

有限会社 グッドライフ

取締役・総合施設長 宮崎直人

宮崎先生が感銘を受けた本  
「満月の夜、母を施設に置いて」  
藤川 幸之助 著 中央法規

第二章 父と、

『母の足をさすりながら』その③

歩けば歩いたで  
ウロウロするなど言い  
歩かなければ歩かないで  
一緒に散歩でもしたいなあと  
車いすを押しながら呟く  
そして母をベッドに寝かし  
母さんは母さんだ  
私はこの母さんと生きるんだと  
母の足を何度も何度もさすりながら  
何度も何度も自分を説得するよう  
何度も何度も母親を説得するよう  
ひとり言を繰り返す

## 〈今月の出来事〉

○誕生日

○子供お神輿

## 《編集後記》



今月の題字は、松井布美子様  
書け頂いてありがとうございます。  
また、コロナウイルスが再流行れて  
ますありがとうございます。  
感染予防もしっかりして  
いましょう。



# 子供お神輿 ～保育園の園児たち～



© iipp



# 7月のアウル

